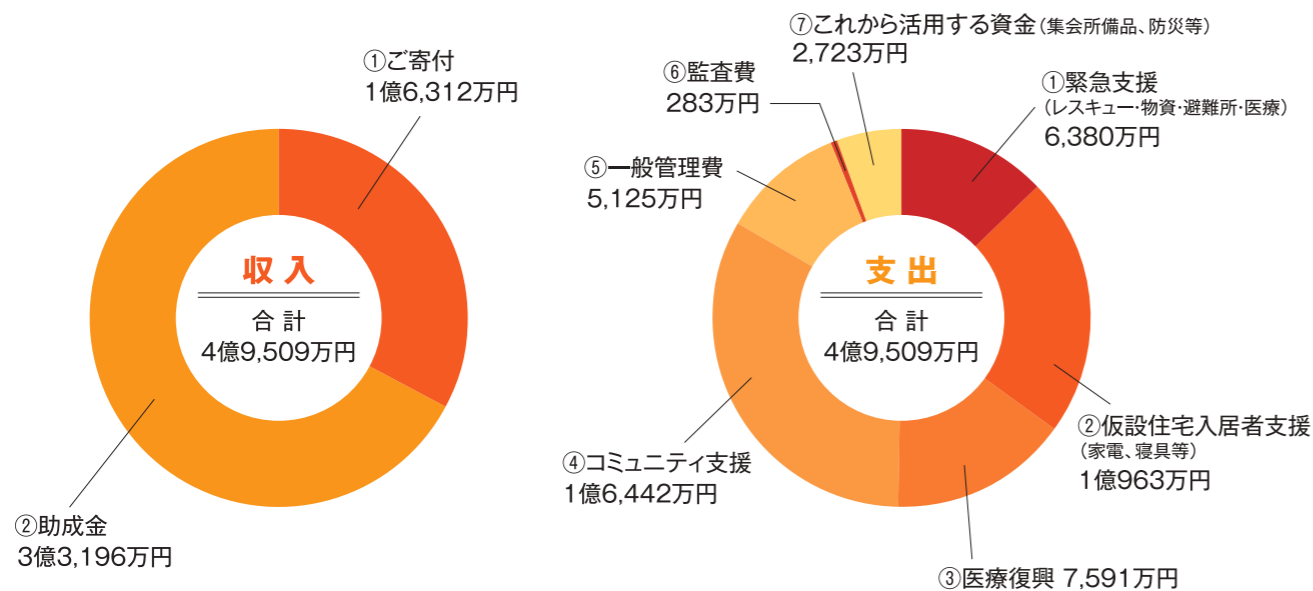


今後の活動 2021.07~

コロナ禍という新たな「災害」のなか、地域の絆を強め防災力を強化する取り組みは続いています。「話し合うための集会もできないんだから仕方ない、何もできない」と諦めるのではなく、今置かれた状況を踏まえたくえどうしたら「何か」ができるのか。情報収集のため、70歳を超えて、初めて携帯をスマホに替えたおばあちゃん。初めてのzoom会議に挑戦し、いつもの会合をオンライン化した自主防災会。みんなで自分たちの地区と一緒に歩いて危険箇所や昔の災害の痕跡をたどる「防災まちあるき」をYoutubeライブで配信した女性グループ。みなさんのひとつひとつのチャレンジを、これからも応援していきます。



会計報告 2018.07~2021.06



あなたのために、ミツバチと
山田養蜂場
YAMADA BEE FARM

一般財団法人クラレ財団



特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所
〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL:0847-89-0885 FAX:0847-82-2949

東京事務所
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL:03-5738-8020 FAX:03-3465-2112

ピースウィンズ・ジャパン 検索



支援活動については、
ぜひホームページもご覧ください。
<https://peace-winds.org/>

その他の活動についてはこちら▼



西日本豪雨 被災者支援

3年活動報告

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

2018年の西日本豪雨災害から3年が経過しました。町並みは一見して災害があったと分からないほどになりました。それでも、いまだ400名を超える方々が仮設住宅で生活されており、決壊した河川の工事はいまでも行われています。

「自分が生きてる間には、さすがにもうあんな大災害は起こらないだろう」「洪水の原因になった二河川の合流地点の工事が終わっていないのだから、いつでもまた同じように溢れる危険がある」「次こそはちゃんと事前に安全に避難したい」「またあんなことが起きたらもう家で死なせてくれ…」思いは様々です。人数や年数といった数字では表せない、お一人お一人の生活がここにはあります。



1. まび記念病院からのレスキュー活動(2018年) / 2. 「逃げ遅れゼロ」の川辺地区を指し防災活動に邁進(川辺復興プロジェクトあるく)(2020年) / 3. 三代目集まれるカフェ・居場所づくり(災害支援団Gorilla)(2020年) / 4. 総社市でのサロン活動「暮らしのえんがわ吉備路」(2020年) / 5. コロナ禍におけるひとり親支援(災害支援団Gorilla)(2020年) / 6. 真備の地元団体による佐賀豪雨被災地での炊き出し(災害支援団Gorilla、そーる訪問看護ステーション)(2019年) / 7. 修復を終えた集会所「プラザ坪田」にて復興の歩みを振り返る(2021年)

発生日

初動期から緊急期(発災日~3カ月)

復旧・復興期(3カ月~2年)



2018年7月——
あの日、岡山県倉敷市真備町は「平成最悪の水害」に見舞われました。高梁川・小田川の合流地点からのバックウォーター現象は、複数の支流を決壊させ、昨日までの日常とともに町を泥水で押し流してしまいました。

発災直後に支援を決定。レスキュー活動や物資の提供、避難所運営支援などを行いました。



避難所に必要な物資各種を提供



避難所の運営をサポート



避難所となった小学校での診察



避難所の環境改善に向けた段ボールベッドと間仕切りの設置



避難所で開かれる毎日の運営会議をリード



被災地の子どもたちを「真夏の雪まつり」に招待

仮設住宅にお住まいの被災された方々へ、家電を始めとした生活物資支援を行いました。



生活家電の提供



クリニックへの医療機器提供



小規模多機能ホームの修繕



サロンで裁縫を楽しむ参加者(そーる訪問看護ステーション)



陶芸教室で干支のネズミづくり(暮らしのえんがわ吉備路)



トレーラーでのカフェオープン(災害支援団Gorilla)

集会所の復旧

地域に根差した会合を行うためになくてはならない集会所。机や椅子から掃除機やスリッパ、湯呑まで、ニーズに応じて提供しました。



発災から2年目に入り、ようやく被災した集会所の修復が進んできました。建物の修復費用の6分の5は市から補助がありますが、備品については対象外でした。「みんなで出し合って、修復費用の6分の1はなんとかかなりそうだけど、備品までは手が回らない」と、再建自体を諦めざるを得ない雰囲気もありました。そうしたお声から、各地区で丁寧に聞き取りをし、それぞれの集会所のニーズに応じた備品を相談しながら選定し、提供しました。

防災

災害を乗り越えたからこそ分かること。もうこんな思いを誰もせずに済むように。日頃からできる取り組みを積み重ね、全国に伝えています。



もしまた同じような災害が起きても、誰も命を落とさないように。今度は、ご近所どうし声をかけあって早めに避難できるように。真備町内それぞれの地区で、活発に防災の取り組みが行われています。PWJは、防災のための体制づくりや真備町内外に経験を広めるための冊子づくり等をサポートしてきました。また小学校での防災授業やこども防災教室、被災した真備図書館への防災関連図書等の寄贈も実施し、真備の未来を担う子どもたちへも、防災を意識するきっかけ作りを行いました。

コロナ下での活動

今までのように集まれない中でも、工夫をこらして活動を続けました。



地域のみなさんがより繋がりを強化して防災力を高めようとしている矢先のコロナ禍。新たな「災害」のなかでも、スマホやzoomといった慣れないツールを習得しながら、活動を続けられました。

「おべんとうおいしかったよ。とっともたのしみにしています。がんばってください。」
コロナ下で活動を続けるお弁当支援に届いたお子さんからの手紙。

